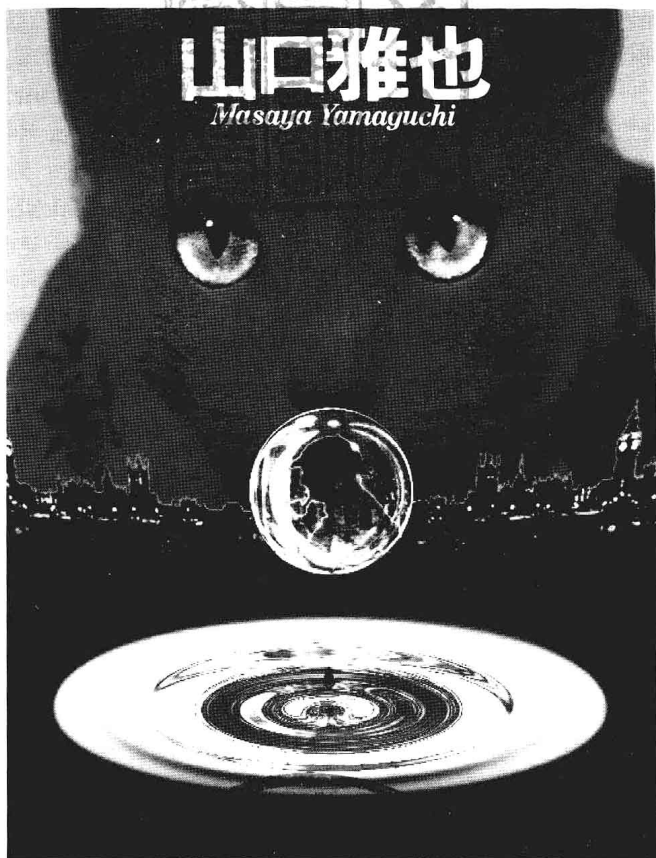


CRIME

13人目の探偵士
山口雅也

CLUB

16人の探偵士



創元クライムクラブ



13人目の探偵士

1993年1月20日 初版

著者 ■ ^{やまぐち まさや}山口雅也

発行者 ■ 平松一郎

発行者 ■ 株式会社 東京創元社

東京都新宿区新小川町1・5 郵便番号162

電話 ■ 東京 (03) 3268・8231代

振替 ■ 東京6-1565

印刷 ■ 工友会印刷

製本 ■ 鈴木製本

乱丁・落丁本はご面倒ですが小社までご送付ください。
送料小社負担にてお取替えいたします。

© Masaya Yamaguchi 1993, Printed in Japan

ISBN4-488-01262-0 C0093

目次

解決／笑っている猫 11

「幕間の口上」 53

#1探偵士ヘンリー・ブル博士 54

#2探偵士マイク・D・バローウ 95

#3探偵士ベヴァリー・ルイス 140

〈探偵士百年祭〉の不快な出来事 182

「幕間の口上」 209

#1ブル博士の解決 210

#2バローウの解決 235

#3ルイスの解決 244

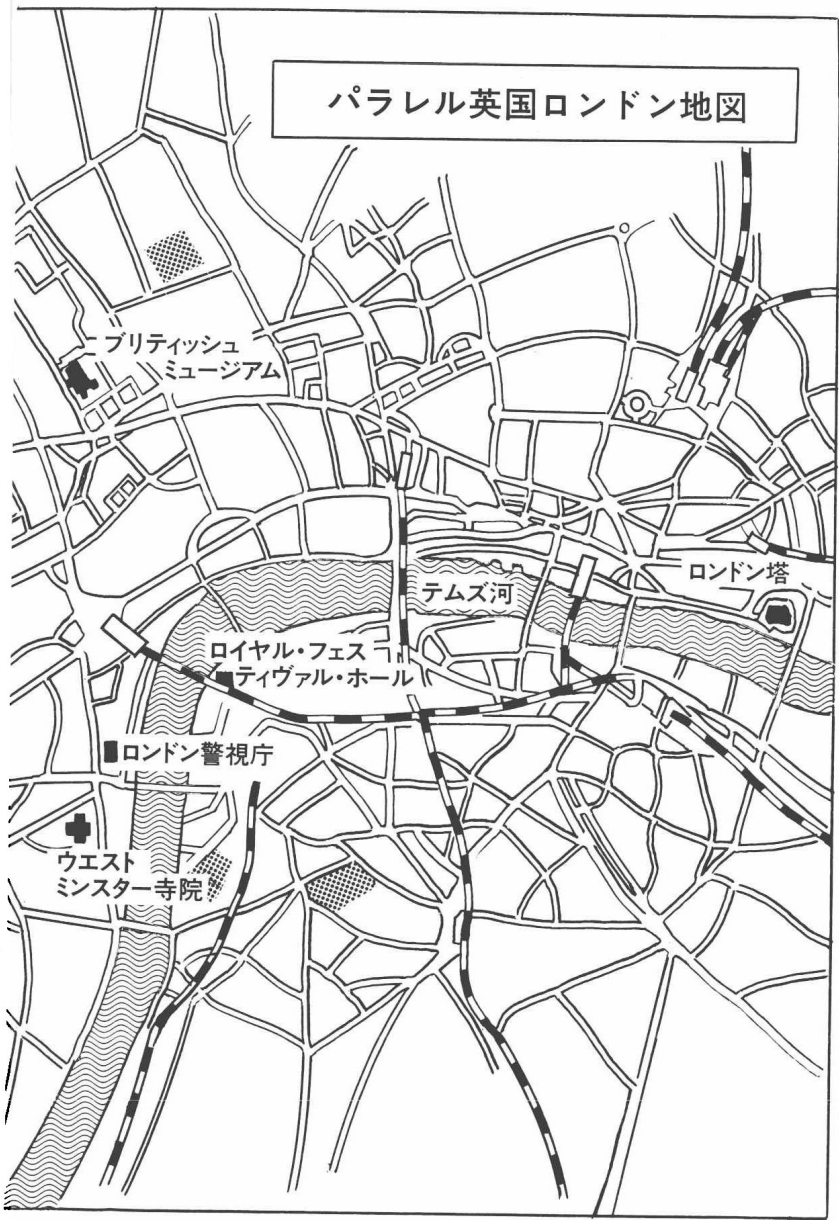
発端／寝ている猫 258

装画
装幀
まり堂
小倉敏夫

13 人目の探偵士

ト 世紀未探偵御伽草子

パラレル英国ロンドン地図



ブリティッシュ
ミュージアム

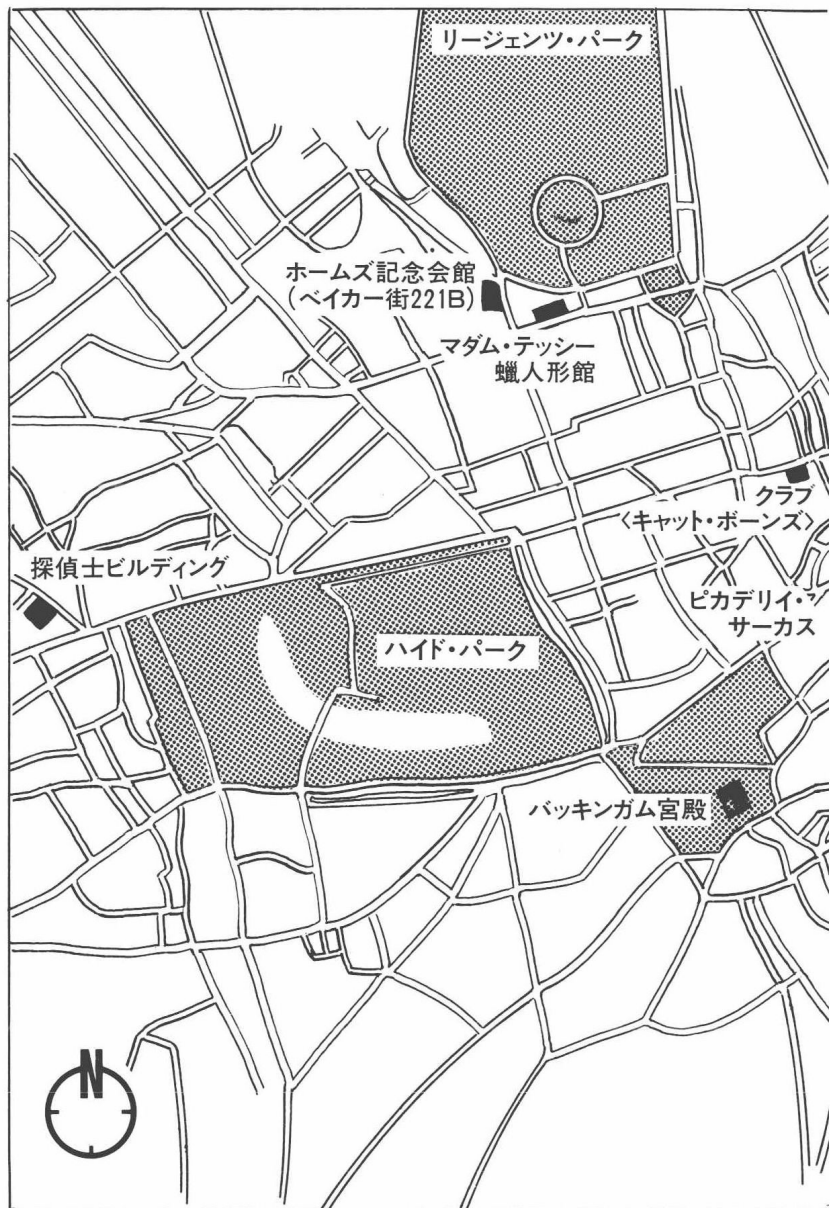
テムズ河

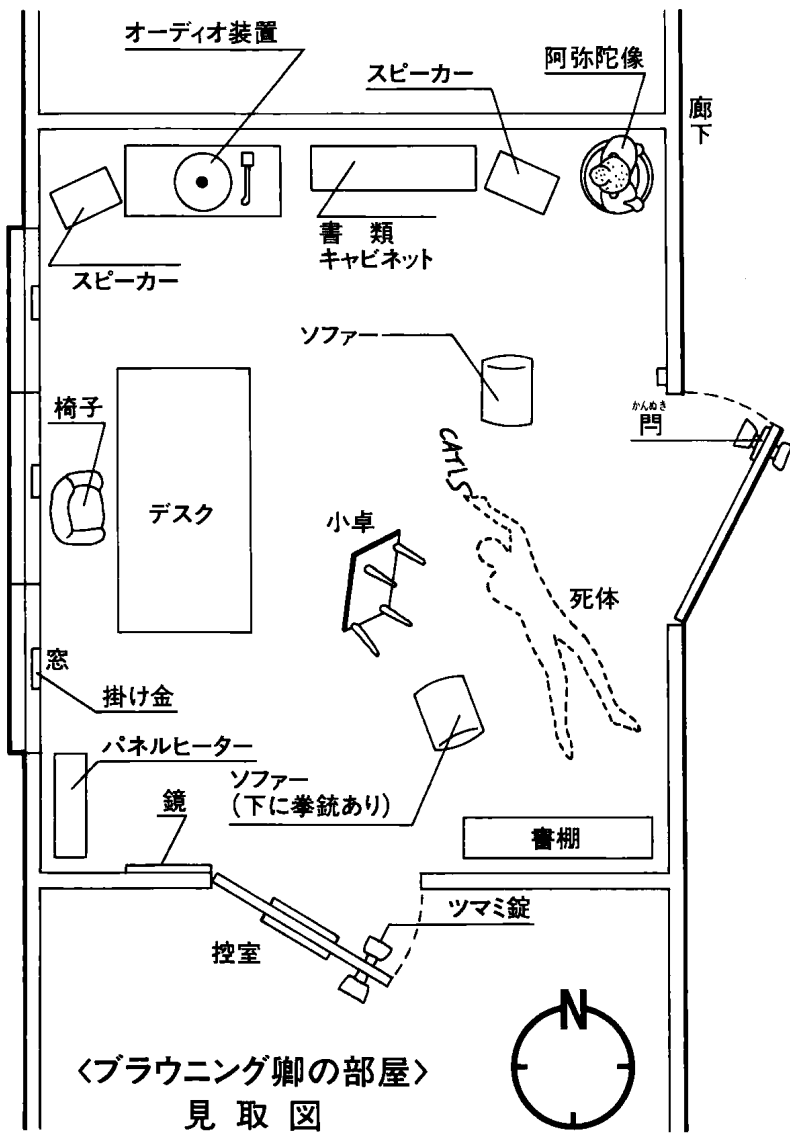
ロンドン塔

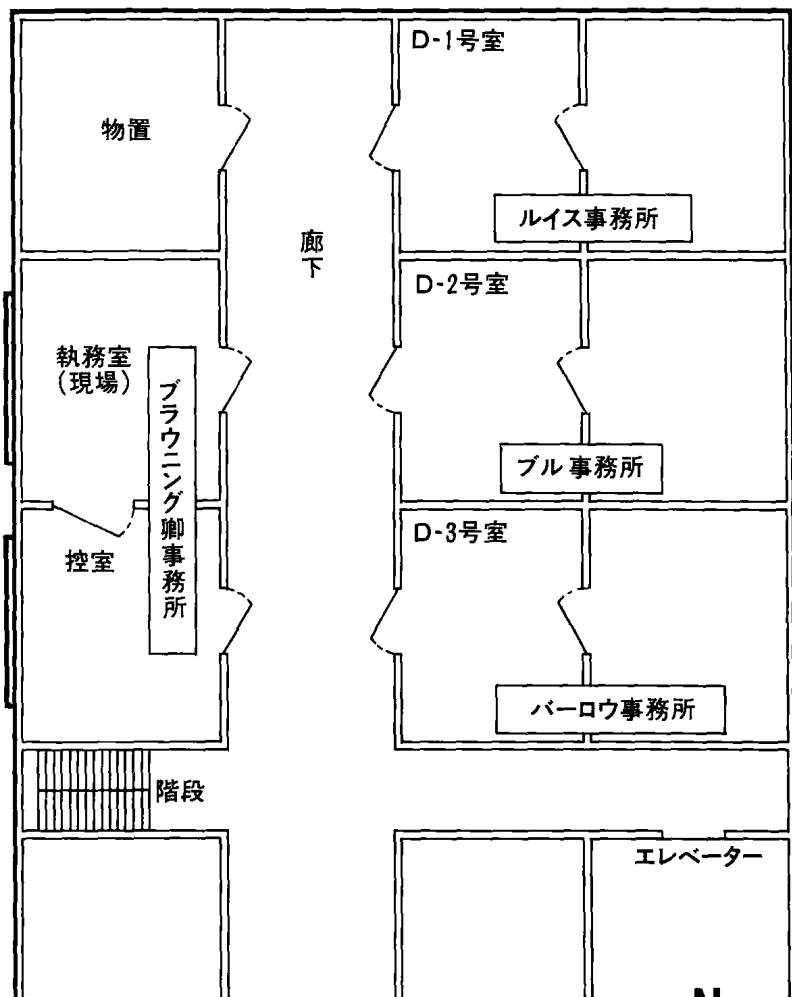
ロイヤル・フェスティバル・ホール
ティヴァル・ホール

ロンドン警視庁

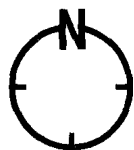
ウエスト
ミンスター寺院







〈探偵士ビルディング 3階フロア〉
見取図



登場人物

“キヤット
猫”

正体不明の殺人鬼

クリストファー・ブラウニング卿

〈探偵皇〉

アドルフ・ゲルドフ

スコットランド・ヤード
首都警察長官

カーター・フーパー

オックスブリッジ伝承童謡研究所所長

アイリーン・フーパー

同副所長

私

記憶喪失の男

キッド・ピストルズ

スコットランド・ヤード
首都警察刑事

ピンク・B（ペラドンナ）

同

ヘンリー・ブル博士

〈探偵士〉

マイク・D・バローウ

〈探偵士〉

ベヴァリー・ルイス

〈探偵士〉

エリザベス・ポーター

ブラウニング卿の秘書

ジョン・ピーボディ

〈探偵士ビル〉管理人

リチャード・ハイズマン

ロンドン塔・武器博物館館長

ジェーン・グリーンウッド

ブル博士の秘書

クルージョン号

探偵犬

シャーロック・ホームズ・ジュニア

シャーロック・ホームズの息子、前へ探偵皇

アイリーン・ホームズ

その孫娘

エドモンド・チタウィック

考古学研究所員

ドク・ボラン

スコットランド・ヤード
首都警察刑事

ガス・ピシャス

同

ジョー

クラブヘキヤット・ボーンズンのバーテンダー

ベティ・クーパー

クラブ歌手

赤鼻

密告屋

ジェイムス・リーチ

マダム・テツシー蠟人形館館長

ウィリアム・リーチ

同副館長

イザベル・ティペット

同オーナー

解決／笑っている猫

1

【解決——伝統的な】

「あなたが、犯人ですね」

探偵は自分が言つたばかりの台詞せりふの効果を確認するように、相手の顔をじつと見すえた。

「ほほう、アタシが犯人とね。それは愉快。何か根拠でもあるのですかねえ？」

「猫」は、賢そうな目つきで探偵を見返しながら応じた。その、男とも女とも、若いとも年寄りともつかぬようなかん高い声が、探偵の神経を苛立たせる。

「根拠ならいくらでも」探偵は乾ききつた唇を舐めると話し始めた。「六月に起きたへ逆さの部屋」事件で、ジェイムス卿の死体の傍らかたわに置かれていた、ホイップ・クリームを塗られたトッポ・ハット。——あれは、まさしくあなたが犯人であることを示す手掛かりじゃありませんか？ あなたはトッポ・ハットのでっぺんに付いたケチャップのしみをどうしても隠さねばならなかった。そこで、テーブルの上にあつたあのホイップ・クリームを塗りたくつたというわけです。

それから、八月のへ気違い聖書」事件。被害者の書き残した『ヨハネの首は東を向く』という死グライヴに際シグのメッセージも、ちゃんとあなたを指し示していた。あなたは例のポオの初版本にピアズ

レーの「サロメ」をかたどった蔵書印を押しましたね。しかし、あなたは間違った場所に印を押してしまつた。つまり、サロメが捧げ持つヨハネの首が別の方角——東を向いていて、ということになるのです。被害者は死に際にそれを指摘したかつた……。

九月の「ピンクの幽霊」事件もあなたの仕業でしたね。あの電話のトリックは見事でした。切換えスイッチの操作ひとつで、あなたは死者を甦よみがえらせたんですからね。

いちばん巧妙だったのは、十月の「四つ目の目覚まし時計」事件じゃありませんか？ あなたはあの事件で第二の時計の針を……」

「もう、けっこう！」

「猫」が突然、ヒステリックにさえぎつた。部屋を一瞬沈黙がおおい、探偵は思わず固唾を呑み込んだ。しかし、「猫」はすぐに平常心を取り戻し、目を細めながら口を開いた。

「なかなか頭がいい。さすがに超一流の名探偵じゃないかえ？ アタシをここまで追いつめた探偵は今までいなかった。あの無能の老いぼれ、シャーロック・ホームズ・ジュニアなんかより、ずっと頭がいい」

「ホームズ・ジュニア？」「猫」の言葉尻をとらえた探偵は思わず興奮した口調になつた。「やっぱりそうなんだ。犠牲者のリストの中には、やはりホームズ・ジュニアも含まれていたのでね。名だたる探偵を十一人も殺したあげく、最後には偉大な名探偵の血を引く前「探偵皇」を血祭りにあげるのが、あなたの邪悪な目的だつたんだ！」

「グフ、グフ、さあ、それはどうかねえ？」含み笑いをしながら、とぼけた表情で天井を見上げる「猫」。この機を逃さじと、探偵はとっておきの切り札を投げつけた。

「私は、あなたの本当の名前を知っている」

「猫」の身体がわずかにこわばった。

「ふん、でたらめをおいいでないよ。そんなたわ言は……」

「たわ言ではありません。あなたの本名の姓はモリアーティ、猫」

「猫」は黙ったまま油断のない目つきで探偵を見ている。探偵は「猫」の反応などにはかまわずに話し続けた。

「私は先日、スイスへ行って調査をしました。百年近く前に、ホームズと宿敵モリアーティ教授が死闘を繰り広げたという、例のライヘンバッハの滝周辺を徹底的に調べるためにね。数週間にもわたる調査の末、私は滝から車で約二時間ほどのところにあるローゼンラウイという町のことを知った。そして、その町の役場で、私はあるものを発見しました。それは——」

「——アタシの出生証明書だった」我慢しきれなくなった「猫」があとを引き取った。「いかに、アタシは、モリアーティ教授の血を引く者さ」

「モリアーティは死ななかつたのか？」

「いや、死んださ。後年、ホームズが語った通り、格闘の末、ホームズのバリツ（柔術のことか）にやられた教授は滝壺に落ちて死んだ。だがね、彼には息子がいてね、あの事件の一週間後に発見された遺体を引き取りにスイスまでやってきた。そして遺体を密かに埋葬すると、そのままローゼンラウイの町に住みついてしまったのよ。なにせ、あの事件の後、ホームズとワトソンのおかげで、モリアーティの名は「犯罪」の代名詞になってしまったんだからね。モリアーティ一族は、もうイギリスでは心安らかに暮らせなくなつてしまったというわけさ。実際、アタシの一族はたいして悪いことはしていなかつたというのに、奴らのおかげで、『モリアーティ教授こそ犯罪のナポレオン。ロンドンの暗黒街に君臨し、町で起こる犯罪の半分、迷宮事件のほとんどが教授の仕

業』ということになってしまった。まったく無茶な話さ。アタシ自身があとから調査してみたら、教授は当時の事件のほんの数件に関係してただけだった。それなのに、奴らはまるで史上最大の極悪人のように決めつけて……」

「モリアーティ教授が関係した、ほんの数件というのは……？」

「例えば、連続娼婦殺しとか——」

「ジャック・ザ・リパーの事件はモリアーティ教授の仕業だったのか」

「猫」は、まんざらでもなさそうに微笑んだ。「ま、まあね」

「まあね——って、それだけでも歴史に残る大犯罪でしょう」

「猫」は気にかける様子もなく、さらに得意気に、

「まだあるわ。リバプール港に陸揚げされたエジプトの猫ミイラ消失事件——」

「あれも、やっぱり、モリアーティ教授の犯罪だったのですか」

「そう。だが、猫ミイラに値打ちなんぞなかった。苦勞して手に入れた十八万体のミイラは畑の肥やしにしかならなかった。ホームズに騙されたのよ。あれは、小賢しいホームズが仕掛けた罠

——一種の罔捜査だったわけね」

「ホームズを相当恨んでいたんですね」

「相当なんでものじゃない。アタシら一族は代々恨みを晴らすために生き続けたようなものよ。親から子へ恨みは語り継がれ、アタシも毎日呪いの言葉を聞かされて育った。時々ライヘンバツハの滝に打たれ東洋式の精神統一をしながら、挫けそうになる復讐心を鍛え直したりもした」

「滝に打たれてねえ……」探偵は少々げんなりしながら呟いた。

「ずいぶん気の長い話だと思ってるね？ ライヘンバツハの事件からもう百年も経とうとしてる